

日本文学は中国文学の影響を大きく受けています。それは、文字を中国の古い書物から得たと、公文書(公の責任ある立場の人間が作成した正式な文書)は漢文で書かれていたこと、そのために、漢詩・漢文を学ぶのが学問の基本であったことなどによりです。ここでは、『源氏物語』や『枕草子』などに多く引用されている「長恨歌」を紹介します。

やってみよう

「長恨歌」は白居易(白樂天)の七言古詩です。唐の玄宗皇帝と楊貴妃との実話を基に百二十句にも及ぶ七言古詩を書きました。

ここに紹介するのは、その最後の章段です。

味わって音読してみましょう。

読めたら
色をぬろう!

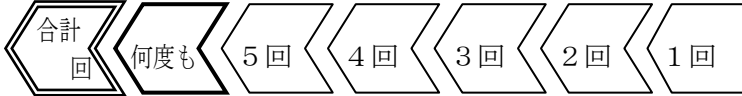


《読んだ回数》

唐の玄宗皇帝は、若く美しい楊貴妃との恋に夢中になり、政治に身が入らず、国が乱れてしまいます。このままでは国が滅んでしまうと部下に迫られた玄宗皇帝は、楊貴妃の命を奪ってしまいますが、楊貴妃の死後、部下に命じて、彼女の魂を仙界(不老不死の仙人の住むところ)に探しに行かせたそうです。

臨 別 慇 懃 重 寄 詞
詞 中 有 誓 兩 心 知
七 月 七 日 長 生 殿
夜 半 無 人 私 語 時
在 天 願 作 比 翼 鳥
在 地 願 為 連 理 枝
天 長 地 久 有 時 尽
此 恨 綿 綿 無 絕 期

わか のぞ いんぎん かき ことば よ
別れに臨んで慇懃に重ねて 詞を寄す
しちゆう ちがいあ りやうしん し
詞中に誓ひ有り 両心のみ知る
ガツ
しちぐわつなのかちやうせいいでん
七月七日長生殿
やはんひとな しご とぎ
夜半人無く私語の時
てん あ ねがワ ひよく とり な
天に在りては願はくは比翼の鳥と作り
ち あ ねがワ れんり えだ な
地に在りては願はくは連理の枝と為らんと
ちョウ キユウ
てんちやうちきうときあ つ
天長地久時有りてか尽くるも
こ うら めんめん た きな
此の恨みは綿綿として絶ゆるの期無からん



★知っておきたい古典の知識

日本は経典きょうてんのような中国の古い書物から文字を得ました。官僚くわんりょうは公文書こうぶんしょを漢文で書くため、学問の基本は漢籍かんせき(中国の古典)を学ぶことでした。やがて、やまとことば(日本に古来こらいからあったことば)を漢字の音を借りて記載きざいする「万葉仮名まんようがな」が生まれ、次いで、ひらがな、カタカナが生まれ、現在の漢字仮名交じり文で日本語を表記するようになりました。

漢字は真名まなと呼ばれ、男性しか使うことが許されませんでした。学者の娘や天皇の后ごうになるような身分の高い貴族の娘などは漢詩・漢文を学び、親しんでいたようです。なかでも、唐の時代中頃なかころの詩人、白居易はくきよい(白楽天)の詩文は『白居易文集』として日本でも広く親しまれ平安文学に大きな影響を与えました。

身に付けると…

日本の古典文学の中に息づく中国文学を発見して味わいが深くなります。大陸の文化が日本の文化に影響していることを感じるすることができます。

読んでみよう

《口語訳》

(使いの者との)別れに際しては(楊貴妃は)心をこめて繰り返し(玄宗皇帝への)ことづてを頼んだ。

そのことづてのなかに誓ちかいの言葉があった。それは(玄宗皇帝と楊貴妃の)ふたりの心だけが知っているものであった。

(それは)七月七日の(たなばたの夜)、あの長生殿ちやうせいだんにおいて、

夜もふけてあたりに人もなくふたりでひそかに語り合ったとき、

「天に召された時には、比翼ひよくの鳥となりた
いものだ。地上にいるときには、連理れんりの枝
となりたいものだ。」と語ったその言葉で
ある。」

天地は永久に存在するものであるが、それがいつか尽つきてしまうことがあってもこの(ふたりの)せつない恋心こいこころは、いつまでも続いて絶たえることはないであろう。

◆漢詩や漢文を日本語に読み下すために、漢字だけの詩文(白文)に、訓点(送り仮名、読み仮名、返り点、句読点)をほどこして訓読文としました。

訓点のつけ方

★位置と表記が決まっています。

真横にひらがなで読み仮名を書きます。

いまダ

右下にカタカナで送り仮名を書きます。

未

左下に返り点を書きます。返り点にはレ点や一・二点、上・中・下点、甲・乙・丙点などがあります。

再読文字は左にも読み仮名を書きます。

《語句の説明》

《参考にしよう》返り点↓
〔学習プリント(言語)1 2年④解説〕

比翼の鳥：雄雌一番が一羽の鳥となっている想像上の鳥。夫婦仲の睦まじいことのとえに使われる。

連理の枝：別々に植わった木が途中の枝からつながって一本の木となっているような想像上の木。恋人同士の強い結び付きのとえに使われる。

